

熊本方言支援ツール使用法 ver. 1

東日本大震災などの被災地の被災者と支援者（災害派遣医療者・福祉関係者・自衛隊・消防等）を対象とした調査を基に、災害支援者を方言で支援する「方言支援ツール」を作成しました。以下、各ツールの特徴と有効な使用法について示します。

1 地域区分

熊本県は方言が3区分されています。それによって、東部・北部・南部に分けています。

2 方言身体語彙図（方言身体語彙表には詳しい記述をおこなっています）

- ①身体部位に関する基本的な方言形を集めたものです。
- ②共通語と同じ語形のは省き、特徴的な単語を記載しています。
- ③避難所等、支援者が交代する場所では、大きなポスターにして掲示し、ここに記載のない方言形を書き込み、次の医療者や支援者への情報伝達の道具として活用できます。
- ④プライバシーが確保できない環境では、これを手元に置いて、指差して使用できます。
- ⑤A4程度の大きさの紙に印刷したり、タブレット等の電子媒体で携帯して使えます。

3 医療福祉関係方言語彙集（4・23時点では、東部方言のみ未完成）

- ①各地から支援に入る医療関係者・福祉関係者・ボランティアを使い手と想定しています。
- ②発災後、1週間から1か月くらいを目途に、直接、被災者とコミュニケーションする際の手助けとなる方言形を記載しています。主に、被災者の心情を表現する感覚や感情に関する語彙・動作に関する語彙・程度や頻度を表す語彙・病気や症状を表す語彙・人間関係の語彙・挨拶や声かけに関する語彙・特徴的な文法などです。
- ③支援者がA4程度の大きさの紙に印刷して持参したり、タブレット等の電子媒体で携帯して使えます。（方言身体語彙図の裏面に印刷して携帯することができます）
- ④掲載地図は、その地域の地名や気象情報の地域区分のための情報です。自分が支援に入っている地域の地名や地域区分を確認し、天気予報等の情報を得る場合の参考にお使い下さい。また、他地域からの自治体職員の派遣支援や訪問看護・介護などの場合、どこで・どのように被災したのかといった基本情報を聞き取る際に必要な情報です。

*こうした方言支援ツールは、これまでの方言研究によるデータの蓄積と医療・福祉等の関係者の連携によって作成されました。今後の被害状況や被災地からの要望等を反映して、順次改定作業を行って更新していきます。

今後の公開予定

折りたたんで持ち歩くことのできる、方言引きの分野別方言の手引きは仮バージョンを公開していますが、近日中に改訂版を公開する準備をしています。

熊本支援方言プロジェクト

問い合わせ先 kumamotoshien@fukujo.ac.jp
 福岡女学院大学人文学部メディア・コミュニケーション学科 二階堂 整
 弘前学院大学 文学部 今村かほる
 高知大学 教育学部 岩城裕之